

自己評価票（東）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然と共に仲間と共に笑いと共にあなたらしく私らしく今を生きる」を理念とし、その人らしく、自然の中で、一緒に暮らす仲間と共に、残りの人生を心穏やかに過ごしていただくことを心がけている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一人ひとりの個性を大切に、本人が自分で選択したことを支援できるようにスタッフ一同が心がけている。カンファレンスを通して、情報を共有して統一された支援ができるように、日々努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月天津風の通信を発行して、その月の誕生日の方や、施設で行われる行事の紹介、スタッフの一言をいれてご家族や地域の主な事業所に配布している。又、大きな行事が行われるときは地域の回覧板で紹介して来訪して頂けるように呼びかけている。	○ 今後も行事への参加を促して行きたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者が施設の近くに住んでいるため、日ごろから近隣の方々とは顔を合わせ挨拶をしたり、立ち話をしている。また、資源ゴミだしをするときは、職員が交代で出すため、顔を合わせる機会は多いと思われる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一人ひとりの個性を大切に、本人が自分で選択したことを支援できるようにスタッフ一同が心がけている。カンファレンスを通して、情報を共有して統一された支援ができるように、日々努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月天津風の通信を発行して、その月の誕生日の方や、施設で行われる行事の紹介、スタッフの一言をいれてご家族や地域の主な事業所に配布している。又、大きな行事が行われるときは地域の回覧板で紹介して来訪して頂けるように呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で、他施設が行っている方法の中で当施設でも可能なことを取り入れ毎月行われるカンファレンスや改善委員会の中で話し合い見直して質の向上を心がけている	○	外部からの視点を活用し新しい情報や物事が発見でき、業務の改善を図っていきたい
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、出された意見や情報等を有効に活用できるように、カンファレンスなどをスタッフ間での情報を共有し日々改善に取り組みサービスの向上を図っている		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回程度は、行政担当者や社協などを訪問し、情報のやりとりをするようにしている		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については、ケアマネジャーの研修で学ぶ機会があり、該当者の身元引受人の方には話をしている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてカンファレンスで話し合ったり、資料を回覧して虐待についての認識を持つように指導している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、時間をかけて契約内容を読みながら説明している。その際に、疑問点などがあればその場で答えるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、不満や意見があるときはスタッフに直接言われたり、自ら管理者やケアマネジャーの元へ来られるので時間を取り聞くように心がけている。	○ アンケートを実施予定
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎回の往診時に医師がふれあい手帳（クリニックで使用しているもの）に健康状態や診察時に行ったことを書き、それをご家族が来訪されたときに読んでいただいている。また、ケアマネが今の心身の状態や、血液検査などをしたときは説明をしている。	○ 「個別だより」を双方向のコミュニケーションツールにできるように、はがきを添付して家族に送っているが回収率が今ひとつなので上げるように改善したい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から苦情を受けた場合は、施設長や管理者が直接そのご家族と話し合いをして、その都度解するようにつとめている。また、訪問者や家族が利用できるように意見箱を設置している	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを通して、運営に関しての提案や意見を皆で話し合い、それが可能であればすぐに業務の改善をして取り入れるようにしている。	○ 改善委員会を立ち上げ、業務の改革を計っているが全員参加型の組織にし、生き生きとした職場作りを目指していく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や往診があるときは職員を多く配置してある。また、急変されたときなどは、日勤帯は看護師がいつでも対応できるように配置しており、夜勤帯は緊急連絡網により指示ができるようなシステムになっている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当施設では、法人内での移動がないため、開設以来殆どスタッフは変わっていないので離職率は低く、比較的安定している。退職などで欠員がある場合は補充に努め、休日出勤等で補いサービスの低下を防いでいる		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が受けられるように勤務シフトを組むようにしている。希望者は有給休日で参加が可能になっている。また、新しいスタッフにはOJTの期間を3ヶ月取り職場で安心して働けるように心がけている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者とは、なかなか交流ができていない。管理者は、時々行われる会議に参加して同市内の同業者と会う機会は持っているが、ネットワークづくりまだにはいたっていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日勤帯では、必ず1時間の休憩時間が取れるように、時間調整・人数調整をしている。毎年12月頃に1年間を振り返り、自己評価を行っている。それをもとに、施設長とスタッフが自己評価のシートをもとに、個人面接をしている。その際にスタッフの日頃の思いや意見を傾聴し、良い方向へ意識が向けられるように話し合っている。セミ	○	福利厚生の一環として外部から講師等を招きセミナーやカウンセリングを実施して早く問題解決をするように心がけている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日の業務は、その日のリーダーが勤務シフトを考えて行われている。常勤・非常勤スタッフもリーダーを行い、自分で考えて業務を遂行するようにしているので、常に問題意識を持ちながら業務をできるようなシステムを日々改善しながら取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に自宅を訪問して、本人・ご家族から時間をかけて話を聞き取るようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を希望される方や、見学に来られる方々には、必ずスタッフが付き添い施設内や、入居に関することを案内・説明して、ご家族からの話を時間をかけて聞くようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの相談を受けた場合は、現在の本人の状況をよく聞き取り、どのサービスが今必要かを説明できるよう、他施設の紹介をするなどしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前調査でご家族から、本人の状況をよく聞き取り、どのようにアプローチしたらよいかを話し合い、それをスタッフ全員が把握できるように、伝言をしたり、カンファレンスの時間に話し合いをしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	身の回りの事は、ハンディキャップがあっても、自分でできることは時間がかかっても行っていたり、施設内の家事仕事は、できる方ができる範囲で一緒に行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が今、何を必要としているかを、訪問されたときや、電話を利用して家族と話ができるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が来訪されたときには、利用者が施設内の言動や、どのように過ごされているかをできるだけ話すようにしている。、家族に本人の認知症がどの程度か、残存する記憶や機能は元気なころと変わらないことなどを話し、家族とのよい関係が保たれるように努めている。。「個別だより」の実施		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたときは、いつでも来訪していただけるように呼びかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が、揃って行えるラジオ体操や嚙下体操を行ったり、テーブルの上で洗濯物を畳んでいただくなど関わり合える機会を作っている。全員参加できる音楽療法などを定期的実施している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、ご家族だけでも訪問されるときは、できるだけ時間をとりお話をさせていただいている。看取りをさせていただいた方へは、法人のグリーフケアの方針と同じく、49日と一周忌の時期にお花を送るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が、その時その時間にやりたいことを優先できるようにしているが、時として食事の時間でも洗濯物を畳もうとしているときなどは呼びかけをしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で、生活歴・サービスの状況などを聞き取りシートを書くようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ全員が、その方の入居してからの状況を把握できるように、毎日の申し送りや伝言シートを活用している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族が来訪されたときには、今の状況を話したり、今の介護状況での意見などを聞くようにしている。ケースカンファレンスに事例を上げて、関係者の意見など取り入れるようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護の状況が変わったときは、家族に状況を説明し、どのようにケアを行うかなどの話しを交えて計画の見直しをしている。医療と介護の両面から検討を行い見直しを計っている。3ヶ月ごとのモニタリングとケアプランの見直しを行い家族に説明し同意を得ている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在、個別ケアの担当者を利用者1人にスタッフ2名が担当して記録をするようにしている。それをカンファレンスを通して、共有できるようにしている。日々の介護記録の中でも、日常の業務を書くだけでなく、そのときの本人の心身の状態も交えて書いてもらうようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況により、ご家族と一緒に過ごせるように泊まって頂いたり食事や、入浴もできるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要があれば、協力をお願いできる体制にある。	○	小中学校や地域の人々のボランティア活動を通じた当ホームへの参加・交流を計画中
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスが限られているため、支援がなかなかできない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、活用していないが、隔月に訪問し情報交換を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○	かかりつけ医師に、直接連絡や話がされていないので、当法人の回答書だけでなく、ケアマネからの連絡方法をどのようにするか考えていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移動される時は、スタッフ間で情報を共有して本人の心身の状態が安定に保たれるように関係者と相談している。介護サマリーや本人のこちらでの生活状況を写真集などにして理解に努めている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症に対しての正しい知識をスタッフ間で共有し、ひとりひとりの人としての尊厳が保てるようにサービスの質の確保を心がけている	○	言葉がけや対応方法は、スタッフ間で注意するように呼びかけている。個人情報の記載のある記録などは入居者等に見られないように配慮する
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が理解できる範囲で説明をして、自分で選択できるようにする言葉掛けをするようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は、個人個人の起きる時間に合わせて食事を用意している。毎日の日課は、食事や入浴・排泄以外は本人の意向に沿うようにしているが、外出したい希望がでた場合はスタッフの人数不足や、業務優先がはずせない場合もあり、実現されないときがある。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院は訪問カットが2ヶ月に1度の割合で来訪していただいているので、本人に希望を聞いて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状況から、一緒にできる方が限られるが、下準備でできることや後片付けを見守りをして行っていただく。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ・アルコール類をたしなむ方は現在いらっしやらないため、支援していないが、当施設内への火気類の持ち込みは禁止しているので、施設内で喫煙は中止するようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して、失禁の可能性の高い方はその方の排泄パターンや行動により判断し早めにトイレ誘導している。その他で自覚のある方は、すぐに介助をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人数調整もあり、隔日に入浴日を決めているが、本人の都合もその日に聞いて入浴されるかどうか決めることもある。本人がその日に入りたいと希望された場合は、時間の調整をして入って頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況を判断して睡眠時間にタイミングを見計らって、居室へ誘導して就寝して頂いている。日中は、本人の休みたい時間に休んで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のできる機能をいかして、支援できるようにしている。	○	外出の機会を増やせるように計画し、実施したがさらに個人の満足度があがるように一年に一回ぐらいは個人的な望みがかなえられる「夢プロジェクト」を推進予定

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の所持ができる方は、持って頂いている。本人がスタッフに、買い物を頼まれるときは、立替をしてあとで本人から支払って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人が外へ出たいと希望されたときは、その時間が困難な状況の場合は時間をずらして外出する。気温が高く天気の良い日は、ラジオ体操や嚙下体操を外で行うこともある。また、15時のおやつ時間も外でとれることがある。	○	いつでも希望される時に外出ができるようなシステムを考案中
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「夢プロジェクト」と言い、スタッフがボランティアで利用者が望むことを叶えるという企画を立ち上げている。今現在では、まだ1人の入居者の墓参りに行きたいという希望を叶えたに留まっている。	○	今後も「夢プロジェクト」を実行できるように人員配置や業務の改善を実施予定
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいときは、取り次いでいる。手紙もすぐに郵送している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	関係者が、来訪されたときは居室を利用していただいたり、テーブルを1つ空けて、本人とご家族と時間のゆるす限り一緒に過ごして頂いている。その間、スタッフは立ち入らないようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや資料を通じて、身体拘束に関する知識を深めるようにしている。また、施設内の壁に身体拘束の張り紙をして意識するようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は本人がかかることはあっても、スタッフは掛けたことがない。玄関の鍵は、夜間は防犯のためかけているが、日中は見守りを強化しているのでかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ホール内で過ごす方は常にスタッフが見守りをしている。居室に入られているときは、時々訪室して状況を把握できるように努めている。夜間は2時間以上は空けないように、見回りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室で飴などの菓子や賞味期限の短い食品類を持っている方は、注意するようにスタッフ間で情報を流し、事故を未然に防げるように情報の共有に努めている」		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に、ホール内では利用者の動きに注意するようにスタッフに呼びかけている。調理を担当するスタッフは、台所から離れないように他のスタッフを介護に配置し、もしやむをえずに離れる場合は、必ず火の元を点検してから離れるように指導している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応についてはそのときの状態を通して、対応方法を学べるように看護師がヘルパーに指導している。	○	誰もが緊急時に対応できるようなマニュアルを作り訓練を実施予定
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自治会の見守りネットワークの活用や交番、消防署などと連携した非難訓練の実施などを計画中		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の起こりうるリスクについては、家族に今の身体や精神の状態を説明してどういう対応をしたらよいか話をしている。ADLに変化があった場合はその都度家族に連絡し対応をお互いに協議している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の介護の中で変化があるときは、必ず看護師に報告がされている。また、看護師も介護業務に入っているため、異常が早く発見されることもある。そのときの状況はその日の勤務リーダーに申し送りされ、夜勤の勤務者にも申し送りされて経過観察されていく。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録の最後の方に、入居者の内服している薬の処方箋を挟んで各自で把握できるようにしている。また、薬の変更があるときは、往診時の内容報告で薬の名前と何の薬かを書いて、スタッフに確認してもらうようにしている。	○	まだ、理解度が足りないので定期的な勉強会を実施予定
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘をしているときは、朝の食事時ににがりを飲んで頂いたり、ホール内を歩いてもらったり、腹部のマッサージをするなどして対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアは欠かさず行っている。食事を取れない方でも、入れ歯のある方では日中はつけて夜間にははずすようにしたり、入れ歯のない方も一日3回は行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのときの本人の状態に応じて食べられる形態のものを、提供できるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症が発生した場合は、その方の身の回りのものを他の入居者と一緒にならないように洗濯を別に行ったり、食器なども消毒効果のあるものを使用してから洗うようにしている。排泄物で汚染されたものは、毎回漬けおきしてから、汚染物をあらう洗濯機を使い洗っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日中の調理を担当するスタッフは、トイレ掃除をはずし、介護業務からもできるだけはずすようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	身体障害のある方でも、自分ひとりで入って来られるように、玄関先は車椅子用のスロープと階段には手すりを取り付けている。玄関を入ると、中まではバリアフリーになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、スタッフが季節ごとの草花を生けている。日中、館内では耳障しくない程度でBGMを流してリラックスできるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自分で居場所を確保しているのを、見守りしている。自分で居場所を確保できない方は、スタッフが落ち着ける場所に誘導する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、事前に相談して、本人が自宅で使い慣れた物や好みの物を、そのまま持ってきていただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内温度に注意しながら、毎日の朝の掃除や、夜間帯で入居者が休まれている時間帯などには、定期的に換気をしたり、日中も臭気が気になるときは、天窓を開けるなどしている。居室内は、冷暖房気・加湿器・床暖房を見回りの際にチェックするようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の廊下には、手すりがあり、トイレ・浴室内も必要な場所に手すりを取り付け、自立を促すように見守りや誘導をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状態が混乱しているときは、話をよく聞いて本人の理解できる範囲の返答をし、納得できるように声掛けをしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は、戸外で日向ぼっこや外でのお茶会ができるように、ベンチやテーブルをおいている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない 日常の会話から、入居者の思い・暮らしの意向を傾聴しながら日々の生活のサポートをさせて頂くことで少しずつではあるが入居者の行動、表情に変化が出てきている
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ES調査から「(入居者と) ゆったりと過ごす時間が欲しいとの要望があり、日中の10時と15時の水分補給・間食時にスタッフも入居者と一緒に摂る時間を確保しながら満足度の向上を試行している
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ひとりひとりの生活パターンを把握しながら、本人の時間を大切にして過ごしていただいている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 日々の生活の中で本人の思い・訴えを傾聴しながら一緒に取り組むことで入居者ひとりひとりの表情・行動に変化がでてきている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ホームの行事・外気浴で戸外に行くことがあるがひとりひとりが行きたいところに出かける機会が少ないため今後は個別支援を強化していく予定
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 同じ法人内の医師の往診や協力医療機関との連携もとっている。また、毎日バイタルチェックも行い健康管理をしている。日々の生活の中でひとりひとりの行動状態を確認し安心できる生活を送って送っていただ
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ひとりひとりの自己決定を大切にしながら、その都度スタッフもサポートさせて頂く事で入居者の方も安心して過ごしてみえる
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない 家族から相談を受けた場合、相談内容をよく傾聴して家族へのアプローチさせて頂き、家族との信頼関係を大切にしている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ホームの行事などに地域の方々徐徐に来所していただける

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない 年を経るにつれ当ホームの理解が増し、地域の人々の応援が少しずつ増えている
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 生き生き働けるように、本年度からセミナーやカウンセリング、ヒーリングを実施してストレスの緩和に努めている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 個別の対応がまだ不足している。入居者にとって今必要としていることを見出しながら個別に対応を取り入れていき入居者の方の満足度の向上を図ることが必要である
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない 医療との連携もはかっており、日々のひとりひとりの健康管理が行われており、また本人の状況変化に対するケアの速やかな変更も行われており「満足している」との家族の声がきこえるようになってきている

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

世界的な経済を中心とした状況の変化に翻弄されることなく、運営理念である「～ともに」に生きるという横型のネットワークを生かし、ひとりひとりが助け合い共生の道を歩みながら、明るく暖かい介護生活を通し、入居者、スタッフ、来訪者のすべてが「ここで生きてよかった。ここで働けてよかった。ここに来てよかった」と感じられるような場を作り、ひとりひとりが個としての花を咲かせられるように努め、地域や社会に貢献できればと思います。特に本年度は「A f t e r Y o u (お先にどうぞ)」をテーマに掲げ、自分のことより周りの人のことを優